

東北大学-RIETI共催シンポジウム

コロナが変えた社会

プレゼンテーション資料

「コロナが変えた日常生活（恐怖感）」

若島 孔文

東北大学教育学研究科教授

2021年11月10日

<https://www.rieti.go.jp/jp/index.html>



コロナが変えた 日常生活(恐怖感)

東北大学大学院教育学研究科
教育心理学講座・臨床心理学分野
教授 若島 孔文

研究報告 1

COVID-19への日本人の感染不安
—一般・大学生・看護師・妊婦の比較—

目的

COVID-19の感染状況

- ・ COVID-19は、2021年10月21日現在、世界で241,441,380人の感染者(確定症例)と4,912,112人の死亡者が出ている(World Health Organization, 2021a)。
- ・ 日本においては、累計1,715,737人の感染者(うち18,149名が死去)と報告されている(内閣府, 2021a)。

コロナ禍における人々の精神的健康

- ・ 多くの人々が、不安やストレスを抱えていることを報告する研究(Wang et al., 2020)
 - ・ 多くの人々が、コロナ禍でストレスや心理的苦痛を抱えていることを報告する研究(Taylor et al., 2020)
- ⇒ **コロナ禍のメンタルヘルスの問題が多く報告されている。**

目的

メンタルヘルスと感染不安

コロナ禍での人々の精神的健康について、多くの人々の心理的な問題について、中心となっていると言われているのが、**コロナに対する不安や恐怖である** (Doshi et al., 2020)。

感染不安のもたらす影響

感染不安を抱えている人ほど、**抑うつ、不安、ストレスが高く、人生の満足度が低い**ことが示された (Satici, et al., 2020)。

⇒では、どのような立場の人々の感染不安が高いのか？

参考：研究室で翻訳された感染不安の尺度

新型コロナウイルス感染恐怖尺度日本語版

以下の項目について，“全くそう思わない”，“そう思わない”，“どちらともいえない”，“そう思う”，“強くそう思う”のうち、あてはまる数字に○をつけてください。

	全く そう 思わ ない	そう 思わ ない	ど ち ら と も い え ない	そ う 思 う	強 く そ う 思 う
1. 新型コロナウイルスが何より怖い。	1	2	3	4	5
2. 新型コロナウイルスのことを考えると落ち着かない。	1	2	3	4	5
3. 新型コロナウイルスのことを考えると手が汗ばむ。	1	2	3	4	5
4. 新型コロナウイルスで命を失うのが怖い。	1	2	3	4	5
5. ソーシャルメディアで新型コロナウイルスのニュースや話題を目にすると、緊張したり不安になったりする。	1	2	3	4	5
6. 新型コロナウイルスに感染するのが心配で眠れない。	1	2	3	4	5
7. 新型コロナウイルスに感染することを考えると心臓がドキドキする。	1	2	3	4	5

目的

【研究の目的】

研究報告1では、コロナ禍において問題となっていた感染不安について、アンケート調査によって明らかにした。

①一般の人々、②大学生、③看護師、④妊婦の4つの立場にアンケートを配布した。

⇒この中で、特に感染不安が高いのは？

立場による感染不安の高さを比較した。

方法

調査内容

一般の人々、大学生、看護師、妊婦の方々対象に、それぞれ**新型コロナウイルス感染恐怖尺度日本語版**（Fear of COVID-19 Scale Japanese Version: FCV-19S-J）を測定した。

調査対象

一般の人々**450名**（男性286名、女性164名、平均年齢48.34歳）、**看護師152名**（男性9名、女性142名、平均年齢37.47歳）**妊婦318名**（平均年齢31.18）、**大学生300名**（男性52名、女性248名、平均年齢19.80歳）
⇒合計1220名が対象となった。

倫理的配慮

東北大学教育学研究科倫理審査委員会（承認ID：20-1-003）

調査時期

2020年5月10日から6月14日の間に行われている。

結果

妊婦の方は、感染不安が高いことが示された。



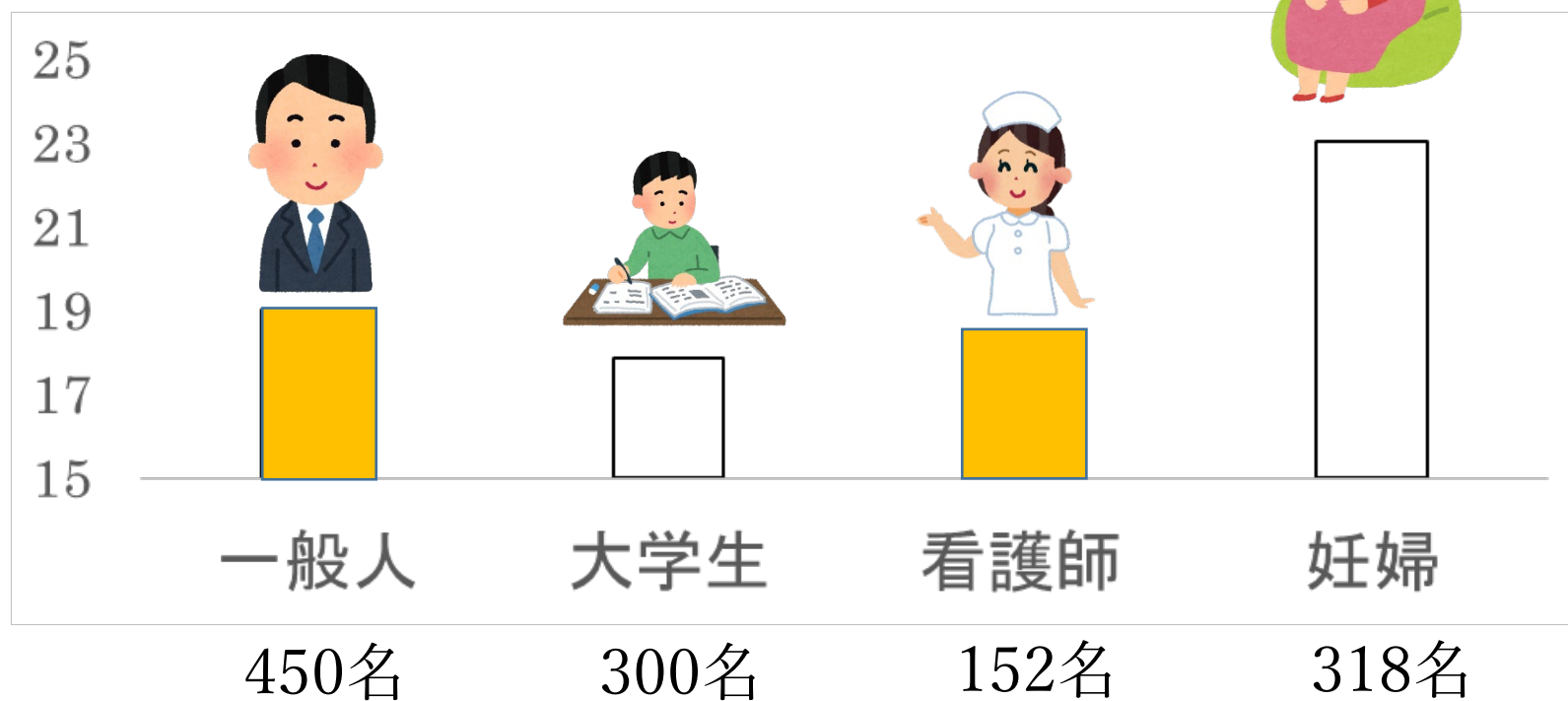
結果

大学生は、感染不安が低いことが示された



結果

看護師は、一般の人々と感染不安が
同じくらいであることが示された



考察

妊婦の感染不安

妊婦は、**感染不安が最も高い**ことが示された。

考察① **妊婦の重症化のしやすいことが関連する可能性。**

妊婦や胎児は、自然災害や大規模な疾病の流行に特に脆弱である (Favre et al., 2020)

考察② 自身の脆弱性のほかにも、**子どもへの感染の影響の懸念**が影響している可能性。

大学生の感染不安

大学生は一般の人々よりも**感染不安が低い**

考察① 若者には比較的重症化しにくいとされるCOVID-19の特徴が反映されている可能性

考察② オンライン授業により、他の人々の接触する機会の少なさが関連している可能性

考察

看護師の感染不安

感染不安が高いと予想されていた看護師は、**一般の人々と同じレベル**の得点であった。

考察①**感情の麻痺**がおきている可能性。

感染に関する情報に多くさらされることで、感情の麻痺がおこるという研究報告（及川・及川，2010）

考察②**対処方法**との関連。

COVID-19への**適切な知識や対処方法**をもっていることで、感染不安を下げるができるのではないか。

研究報告2

コロナ禍における家族生活の変化

—感染不安・虐待不安・パートナーへの暴力
・ネット依存，精神的健康へ影響—

目的

人々は家で過ごすことを余儀なくされるようになり、早2年が経とうとしている。
一方、家族で過ごす時間が増えたことで、家族にまつわる問題が増えてきている。

具体的には・・・

- 児童虐待の増加(朝日新聞デジタル, 2021a)
- ネット依存の増加(朝日新聞デジタル, 2021b)
- 介護にまつわる問題の増加(朝日新聞デジタル, 2021c)
- DVや離婚に関する相談の増加(宮城県仙台市弁護士会, 2021)
- 自殺率の増加(厚生労働省, 2021)

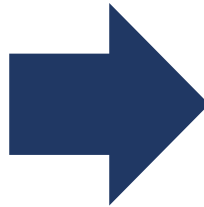
本研究では、コロナ禍の同居家族における何が、コロナ感染不安、児童虐待不安
やパートナーへの暴力、ネット依存、精神的健康へ影響しているのか、について探索的
に検討することを目的とする。

目的

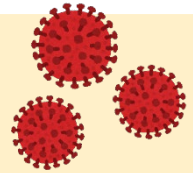
家族の在り方



- 収入はコロナ後にどう変わったか
- 高齢者がいるか
- ワクチン未接種者はいるか など...



感染不安



精神的健康



家庭内暴力



児童虐待不安



ネット依存



生活変動(家族会話等)



どのような家族が， どのような問題に繋がるか？

方法

調査内容

家族関係、精神的健康、家庭内暴力、児童虐待不安、ネット依存、生活変動を調査した。

調査対象

子どもを持つ親220名（男性70名、女性150名、平均年齢41.60歳）

倫理的配慮

東北大学教育学研究科倫理審査委員会（承認ID：21-1-032）

調査時期

2020年9月から10月の間に行われている。

結果

コロナ前と比べて、収入が減ったと感じている人

コロナ前よりも
収入が減った人

男女（220名）において

精神的健康が良くない

$\beta = -.174, p < .05$



ネット依存傾向にある

$\beta = .168, p < .05$



人との会話が減った

$\beta = .166, p < .05$



結果

家族内でコロナに関する意見の対立がある人

家族内でコロナへの
意見の対立がある人

女性（150名）において

精神的健康が良くない

$\beta = -.240, p < .01$



夫からの暴力を感じている

$\beta = -.220, p < .01$



家族の仲が悪くなった

$\beta = -.208, p < .05$



考察

- ・調査時期が感染収束期であったせいか、コロナ感染不安への影響変数はなかった
- ・家族内の状態として、**コロナに関する意見の対立がある**ことは、家庭内暴力や家族仲や精神的健康の悪化に関連していた
- ・インターネットへの依存度合いは、**コロナ禍により収入が減った人**に多くなる可能性がある。（家にいる時間が多くなるから？）

総合的な考察

感染拡大初期に行われた研究報告1

感染拡大状況下における感染不安を扱った。

- ・妊婦のように、重症化のリスクの高い人々において、メンタルのケアが必要であった。
- ・看護師の感染不安が一般人と同程度

⇒パンデミックの初期には、ウイルスへの適切な知識や対処技術が感染不安の低下およびメンタルヘルスの向上に結び付く可能性

コロナ禍での生活に慣れ、ワクチンが普及した時期での研究報告2

- ・感染不安と精神的健康との関連は見られなかった。
- ・人々のコロナに関する意見の対立が、精神的健康の悪化だけでなく、
家庭内暴力や家族仲の悪化のように、社会的な問題を引き起こしていた。
- ・コロナ禍により収入の減少とインターネット依存との関連

⇒感染不安が問題となってきたパンデミックの初期より、問題が複雑化し、社会的な問題へと発展してきたことが予想される

研究室におけるコロナ関連論文一覧

- Wakashima, K., Asai, K., Kobayashi, D., Koiwa, K., Kamoshida, S., & Sakuraba, M. 2020 The Japanese version of the fear of COVID-19 scale: Reliability, validity, and relation to coping behavior. Plos One, 5. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0241958>
- Asai, K., Wakashima, K., Toda, S., & Koiwa, K. 2021 Fear of novel coronavirus disease (COVID-19) among pregnant and infertile women in Japan. Journal of Affective Disorders Reports, 4. <https://doi.org/10.1016/j.iadr.2021.100104>
- Lin, C.Y. Hou, W.L., Mamun, M.A., Aparecido de Silva, J., Broche-Pérez, Y.B., Ullah, I., Masuyama, A., Wakashima, K., Mailliez, M., Carré, A., Chen, Y.P., Kuo, Y.J., Soraci, P., Scarf, D., Broström, A., & Griffiths, M.D., & Pakpour, A. 2021 Fear of COVID-19 Scale (FCV-19S) across countries: Measurement invariance issues. Nursing Open, 8(4), 1892-1908. <https://doi.org/10.1002/nop2.855>
- Takagi, G., Wakashima, K., Sato, K., Ikuta, M., Hanada, R., & Hiraizumi, T. 2021 The relationship between fear of COVID-19 and coping behaviors in Japanese university students. International Journal of Brief Therapy and Family Science, 11(1), 42-57. https://doi.org/10.35783/ijbf.11.1_42
- 小岩広平・若島孔文・浅井継悟・高木 源・吉井初美, 2021 我が国における看護師の新型コロナウイルス感染症への感染恐怖の規定要因, 心理学研究, 92(5), 印刷中 <https://doi.org/10.4992/jipsy.92.20048>
- 櫻庭真弓・高木 源・若島孔文, 2021 中学生を対象とした解決志向短期療法に基づくワークの効果の検討 東北大学大学院教育学研究科『研究年報』, 69(2), 191-207.